



令和5年度 鹿児島県広報コンクール

# 広報紙部門



- ① 広報あいら AIRView(8月号)
  - ② 29,000部・12回
  - ③ A4判・36ページ
  - ④ 始良市 秘書広報課
- ①広報紙 ②発行部数・年間発行回数  
③判型・平均ページ数 ④担当課



## 講評

### 企画

- ・ 特集の構成が練れている。フロント写真、表面から中面までをつなぐリズムが小気味いい。3ページ目のウナギの顔が効いている。特集以外にもミニ企画などが充実していて、情報が盛りだくさん。
- ・ 河川環境の保全に取り組む漁協の活動を詳しく取材し、活動の意義や課題などを分かりやすく文章化している。謎の多いシラスウナギの生態を知る上でも重要な活動であると強く感じた。

### 文章

- ・ 小見出しなどを挟みながら、全体的に文章が読みやすい。段落の量もちょうどいい。
- ・ やや文章が長いと感じたが、読み応えがあった。分かりやすい言葉を使うよう心掛けている印象を受けた。

### デザイン レイアウト

- ・ 河川環境を表現するテーマ色である青の濃淡だけでページを構成する技量は見事。石倉籠の説明のデザインも凝りながら、読者の興味を引くつくりになっている。
- ・ 文章と写真のバランスが良かった。じっくり読めるよう工夫がなされていたと思う。昨年に引き続きレベルの高い広報紙となっている。



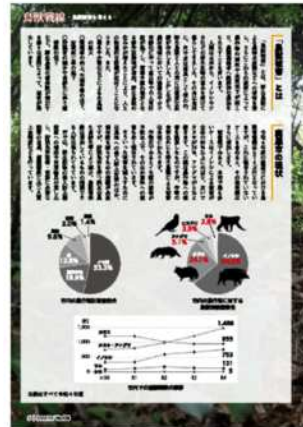


令和5年度 鹿児島県広報コンクール

# 広報紙部門



- ① 広報かのや(11月号)
  - ② 42,400部・24回
  - ③ A4判・28ページ
  - ④ 鹿屋市 政策推進課
- ① 広報紙 ② 発行部数・年間発行回数  
③ 判型・平均ページ数 ④ 担当課



## 講評

企画

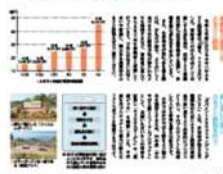
- ・ 全国的に2023年はクマなどの被害も取り沙汰された年だった。荒れる山は全国共通のテーマであり、「野生鳥獣被害」はタイムリーだ。この問題に対し、市民に向き合ってほしいという思いが伝わってくる紙面展開だった。
- ・ 鳥獣被害という難しい問題を分かりやすく伝える内容となっている。猟友会や農地を守る取り組みを通して、市民がこの問題の深刻さを知り、地域の課題として考える良い機会になったのではないと思う。

文章

- ・ 全体を通して、読みやすい文章だと感じた。
- ・ やや文章が長く感じたが、読み応えのある記事。企画の項目ごとの見出しについては、工夫の余地があると思う。

デザイン  
レイアウト

- ・ インパクトがあるデザイン。データのグラフも効果的に配置され、読み手の理解を助ける工夫が光る。
- ・ 鳥獣被害、ふるさと納税、地域交通問題など盛りだくさん。全体としては、各ミニコーナーの見出しのワッペンフォントを含め、もう少し抑えた方がより読みやすくなると思う。
- ・ 写真などを多く使い、記事の内容とリンクしていたため、分かりやすかったと思う。表紙の花火の写真も素晴らしかった。

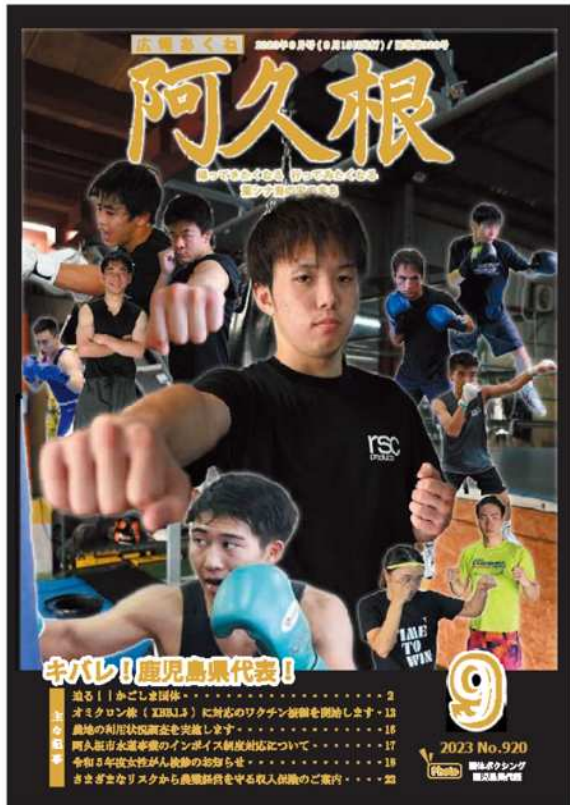






令和5年度 鹿児島県広報コンクール

# 広報紙部門



- ① 広報あくね(9月号)
- ② 10,000部・12回
- ③ A4判 32ページ
- ④ 阿久根市 総務課

- ① 広報紙 ② 発行部数・年間発行回数
- ③ 判型・平均ページ数 ④ 担当課



## 講評

企画

- ・ かごしま国体のボクシングを観戦してほしいという主張が明確。切り口も多彩で、ボリュームも十分だった。
- ・ かごしま国体ボクシング競技にスポットを当てた内容で、特にボクシングのルールに関する内容は分かりやすく見応えがあった。県代表選手をみんなで応援しようという機運醸成が図られたのではないかと。

文章

- ・ 特に気になることはなく、よかった。
- ・ ボクシングに関する情報をあらゆる視点から紹介し、文章で分かりやすく伝えられていたと思う。

デザイン  
レイアウト

- ・ 特集のレイアウトはメリハリが効いており、動きを感じるデザインとなった。カット写真なども効果的だった。フロントのレイアウトはもう少し工夫の余地もあったかと思う。
- ・ 表紙の写真はインパクトがあった。全体的に色使いや紙面のレイアウトも工夫されていた。





令和5年度 鹿児島県広報コンクール

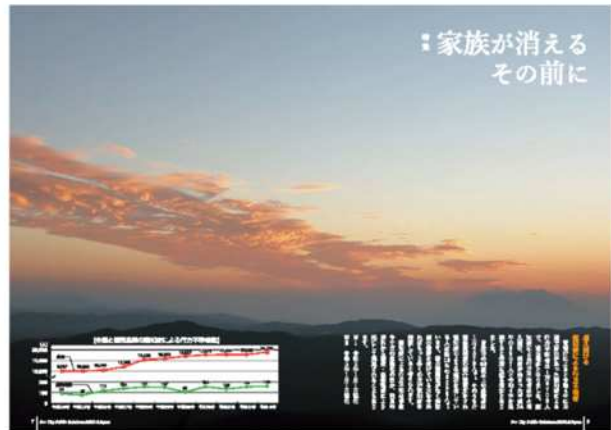
# 広報紙部門



特集 家族が消えるその前に

- ① 市報そお Soo City (9月号)
- ② 13,600部・12回
- ③ A4判 33ページ
- ④ 曾於市 企画政策課

- ① 広報紙 ② 発行部数・年間発行回数
- ③ 判型・平均ページ数 ④ 担当課



## 講評

### 企画

- ・ 認知症による行方不明は高齢化社会の重要な問題。真正面から取り組む姿勢は好感もてる。ページも十分に割いており、メッセージを発信する意欲が伝わってくる。「家族が消えるその前に」というコピーもキャッチー。リード部分に曾於市の高齢化率を盛り込みたかった。
- ・ 認知症をめぐる問題を取り上げた特集は、当事者家族以外の人にも深刻な問題として捉えることができる濃い内容。声掛けのポイントなども分かりやすく紹介されていた。

### 文章

- ・ 横組みの文章の文字数が多かった。
- ・ 見出しの立て方や記事への導入が優れていると感じた。文章量も適量で読みやすかった。

### デザイン レイアウト

- ・ 特集の見開きの夕焼けの写真とキャッチコピーがうまくマッチしていた。全体的に気になるのが見出しなどに使っている強調の手法。地紋や字体のカラーリングはもう少し整理したほうが読みやすいと思う。
- ・ 全体的に記念写真のようなものが多く感じた。もう少し人の動きのある写真を載せても良かったのではないと思う。







令和5年度 鹿児島県広報コンクール

# 広報紙部門



## 天皇皇后両陛下、御来垂

去る10月8日(日曜日)、本市で開催された特別国民体育大会「激ゆる感動かごしま国体」のフェンシング競技を御覧になりました。写真は、会場の垂水中央運動公園体育館に御到着され、お出迎えの御挨拶へお声かけされる天皇皇后両陛下です。

- ① 広報たるみず(11月号)
- ② 6,900部・12回
- ③ A4判 48ページ
- ④ 垂水市 企画政策課

- ① 広報紙 ② 発行部数・年間発行回数
- ③ 判型・平均ページ数 ④ 担当課



## 講評

### 企画

- ・ 垂水吹奏楽団10周年のタイムリーな特集。「行進曲の父」瀬戸口藤吉翁を紹介するミニコーナーがあれば、より特集に厚みが出た。
- ・ 垂水吹奏楽団の特集は歴史や団員の思いなど中身の濃い内容。結成10年の節目を飾る特集だったと思う。

### 文章

- ・ 特集の垂水吹奏楽団団長のインタビューに繰り返し「田中さん」が出てくるが、インタビューなので田中さんは言わずもがな。誤読を避ける以外は重複は避けたい。
- ・ 分かりやすい言葉で読みやすかった。まちの話題などもほどよい文字数だったと思う。

### デザイン

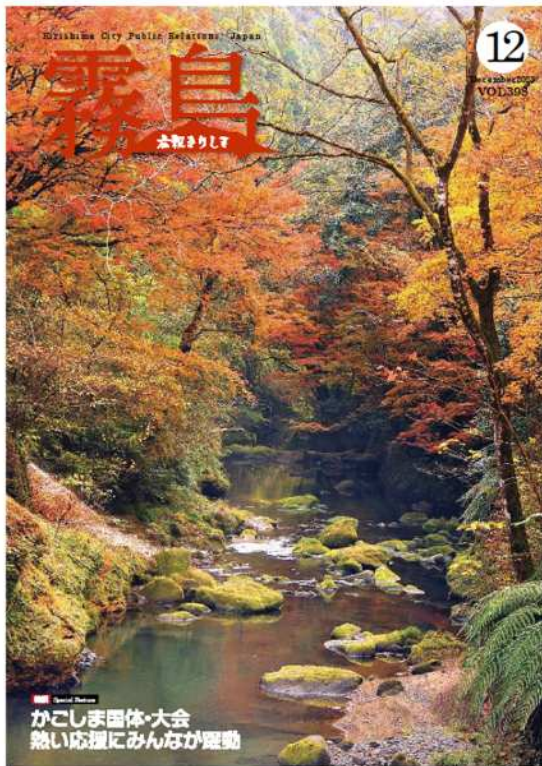
- ・ 特集を含めて全体的に洗練されている。特集の入りの譜面のような年表の見開きは印象に残った。
- ・ 市民生活に必要な降灰収集、休日在宅医情報を背表紙に表示しているのは好感がもてる。デザインの力を感じる。
- ・ 「さらりと読める～」というコンセプトどおり、全体的に読みやすい仕上がりだった。





令和5年度 鹿児島県広報コンクール

# 広報紙部門



- ① 広報きりしま(12月号)
  - ② 43,000部・22回
  - ③ A4判 32ページ
  - ④ 霧島市 秘書広報課
- ①広報紙 ②発行部数・年間発行回数  
③判型・平均ページ数 ④担当課



## 講評

### 企画

- ・ 鹿児島島にとって「かごしま国体」は一番のテーマ。専門家に聞く「応援が力になるは本当か」で特集に厚みが出ていた。例年多彩なアプローチでテーマを表現する熟練のテクニックを知っているだけに、少し単調に感じた。
- ・ かごしま国体・大会にスポットを当てた特集は、地元での盛り上がりやボランティアで関わった人たちの声などがまとめられていて記念に残る1冊になったのではないかと思います。

### 文章

- ・ 若干、記事が長いように感じた。要点を絞り、文字も大きめにしてお年寄りにも多く読んでもらえるような工夫があっても良いと思う。

### デザイン レイアウト

- ・ 一部凝りすぎと感じる部分や、雑然としたイメージを受けたところがあった。字体フォントの種類が多いと感じた。
- ・ 人の表情がよく出ている写真を大きくするなど、写真の掲載についてはメリハリをつけるとより良いのではないかと思います。

